

令和2年度フレンズジム滝谷事業者向け 事業所自己評価アンケート

2020年9月実施

配布数 9

回収数 9

回収率 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	89%	11%	0%	やや余裕の持てる定員設定にしている。自由遊び時はエリアを区切るなど工夫している。
	②	職員の配置数は適切である	56%	33%	11%	時間帯やプログラムによって人員不足と感ずることもあるが、子ども2名に対し職員1名を基本としている。送迎時の添乗人員についても適宜配置。
	③	事業所の設備等は安全面の配慮が適切になされている	100%	0%	0%	安心して運動や走り回れるよう、でっぱりなどを最小限にしている。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	89%	11%	0%	日毎の打ち合わせ時やケース会議への参画、前回の活動を振り返り、次の活動を改善するよう努めている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	昨年度実施分や日々の聞き取り等を受け、随時スタッフ間で共有し改善を行っている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	89%	11%	0%	定年実施し、HP公開している。
	⑦	現在第三者による外部評価は行っていないが、機会があれば第三者評価を受審すべきである	78%	22%	0%	現在のところ外部評価は行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	社内研修や外部研修の報告会などを実施している。ABA研究者からスーパーバイズしてもらい、療育の質の向上に努めている。
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	100%	0%	0%	ケース会議等で子どものニーズを抽出し、半年に1度の保護者面談も行い、課題を話し合い作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールをより活用すべきである（現在は利用開始時に生活スキルチェックを実施している）	100%	0%	0%	現在現場指導員でも活用できるものを使用している。
	⑪	活動プログラムはそれぞれの職員がアイデアを出し合い、固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	担当職員が中心となり立案したものを職員間で共有し、適宜意見を出し合いながら提供している。週ごとにメインの活動を変えている。
	⑫	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	89%	11%	0%	長期休暇や日曜日及び祝日にイベントを設けることもある。
	⑬	子どもの状況に応じて、個別の課題に対する取り組みと集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	100%	0%	0%	活動自体は集団療育であるが、個々の課題や介助度を把握し、個別の対応を行っている。
	⑭	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	支援の開始の前に必ず職員間で打ち合わせを行い、前回の振り返りと留意点、送迎計画や個別の支援の確認等を行っている。
	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか、または次回支援の際に申し送りができるよう、記録等を残している	100%	0%	0%	個別記録を職員間で確認しながら記入するよう努めている。また、ヒヤリハットがないかなど、活動全体の振り返りを行っている。
	⑯	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	職員それぞれが意識しながら記録の記入に努めている。

	⑰	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	概ね1ヶ月から2ヶ月毎に個別記録を振り返り、支援内容を見直している。
	⑱	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%	0%	0%	複数の活動を利用者の実態に応じて取り入れて取り組んでいる。
関係機関や保護者との連携	⑲	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した適任者が参画している	100%	0%	0%	主に児童発達支援管理責任者が出席している。
	⑳	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%	基本的には保護者を通じて行っている。必要に応じ、直接幼稚園や保育園へ連絡を取り、調整を行っている。
	㉑	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	89%	11%	0%	必要に応じて連携を取っている。
	㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	必王に応じて連携を取っている。また、センター主催の研修会や見学会などへも参加している。
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	33%	45%	22%	戸外活動の際に地域の公園にて、場所や遊具の共有の機会がある。
	㉔	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	33%	45%	22%	主体的に参加し、他機関、他事業所との連携に役立てている。
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	様子に変化や気になることなどを、支援終了後、連絡や送迎時、必要に応じて電話で保護者の方に伝えるようにしている。
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	78%	0%	22%	日々の送迎時や連絡帳、面談時等にて児童の共通理解を深めながら、必要な助言や援助を行うようにしている。
保護者への説明責任等	㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時に伝え、変更があった場合にはその都度文書にて通知している。
	㉘	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	日々の送迎時や連絡帳、面談時等にて児童の共通理解を深めながら、ともに考えたり、提案するようにしている。
	㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	56%	33%	11%	保護者会を年1～2回行うことを目標としている。
	㉚	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	契約時に苦情窓口に関する説明を行っている。
	㉛	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	月1回通信を発行し、活動スケジュールとともに活動内容などの周知を図っている。
	㉜	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	守秘義務の順守に努めている。
	㉝	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている（視覚支援ツールなど）	100%	0%	0%	定期的な面談や連絡帳などで行っている。
	㉞	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている、または今後予定がある	0%	44%	56%	今現在の予定はないが、こういった形で開放していけるか検討していく。
非常時	㉟	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	事業所内にマニュアルを掲示するなどしているが、今後も定期的な啓発に努める。
	㊱	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	定期的な避難訓練を実施している。
	㊲	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	採用研修にて必修としている。また、外部研修への参加も予定している。

等 の 対 応	③⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載していくことは、職員間で周知されている	67%	22%	11%	現在のところ身体拘束を行うケースはないが、職員間の共通理解や学ぶ機会を設けていく。
	③⑨	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	89%	11%	0%	保護者より確認し、おやつ提供時には職員間で確認後、提供している。
	④⑩	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	職員が手に取りやすい位置にファイルを置き、各自で確認できるようにしている。